

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (ひだ荘川ふるさと祭り開催事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント来場者・荘川町民	対象者数	6,500 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の交流人口の増大を図る 地場産業の活性化を図る 次世代に受け継がれる郷土芸能の保存 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・30頭の連獅子、荘川民謡や郷土芸能の披露と招待獅子の披露 ・郷土料理や特産品の販売 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	・平成26年10月19日(日)イベント開催(合併10年記念としても開催) ・町内の各神社で受け継がれている獅子舞の披露と各神社から集められた獅子30頭による日本一の連獅子の披露 ・荘川民謡の披露 ・3年に一度のひねり踊りの披露 ・荘川特産品や郷土料理の販売					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	ふるさと祭りチラシ新聞折り込み枚数	枚	目標値	130,960	130,960	64,000
				実績値	130,960	64,000	59,800
				算出根拠等	配布件数	達成率(%)	100
	活動指標	ふるさと祭り運営会議開催	回	目標値	9	9	11
				実績値	9	9	12
				算出根拠等	開催回数	達成率(%)	100
	成果指標	ふるさと祭り来場者数	人	目標値	5,500	5,500	6,500
				実績値	6,000	1,500	6,500
				算出根拠等	当日来場者数	達成率(%)	109
	成果指標	荘川地域10月の観光客入込客数	人	目標値	60,000	60,000	60,000
				実績値	51,718	47,900	49,880
				算出根拠等	観光客入込調査	達成率(%)	86
	成果指標	イベント出店者売り上げ額	千円	目標値	2,500	2,500	2,000
実績値				2,391	792	2,277	
算出根拠等				出店者売上額	達成率(%)	96	32
成果指標	荘川町民参加率	%	目標値	25	25	43	
			実績値	26	28	41	
			算出根拠等	荘川町民参加者(493人)/10月荘川町人口(1,190人)	達成率(%)	104	112
補足事項							
紅葉の時期に合わせて行イベントで、毎年リピーターも多く、たくさんの来場者で賑わう。地域住民が丸となって取り組んで続けている。また、各神社の獅子舞や荘川民謡など荘川地域の伝統芸能がふるさと祭りを通して、受け継がれている。							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,999	4,500	4,192	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源			4,999	4,500	4,192		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	833	3,000	645	
	受益者	イベント来場者数	(B)	6,000	1,500	6,500	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・毎年10月の第3日曜日は「ふるさと祭り」として定着しており、多くの来場者がリピーターとして訪れている。また、地域全体がイベントに参加して盛り上げており、地域の活性化にもつながっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・荘川地域の一帯大きなイベントで、地域に多くの観光客が「ふるさと祭り」を目的に訪れる。このイベントで地域の郷土料理や地域の芸能が紹介できており、地域振興が図られている。実施にあたり市の助成が求められている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・イベントの開催により観光客の集客にもつながっている。また、イベント内で、高原野菜やそば、山菜加工品を販売し、地域のPR活動ができた。さらに地域全体で取り組むことで、地域の伝統芸能の保存と伝承につながる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・チラシの新聞折込を最低限に減らし、その分を広告宣伝に使うなど、少ないコストで最大のPRができるよう改善している。また各委託料などの支出の見直しを常に行っている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・地域特有の文化を大切な観光資源として活用し、観光客の集客に効果があつた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・市の観光イベント補助金を受け、継続する方向で検討が進められている。 ・荘川町全体が参加し開催しているが、イベントの目玉「30頭の連獅子」は参加する地域住民の高齢化が進み後継者不足が懸念される。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (ひだ庄川清流あまご・やまめ釣り大会)	担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3332
予算	会計	1 一般	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	70 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川地域に数多くの釣りファンを招き、自然と清流の釣りのメッカとしての地位を確立する。 ・釣りのみならず、他のイベントや各観光施設に訪れる機会を創出する事で交流人口の増加と地域振興が図られる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・年に1回の釣り大会の開催 ・大会前日は、旅館組合に加入している宿泊施設に宿泊し、宿泊代と参加費をセットにし参加者を募集する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	平成26年6月1日(日) 1回開催				
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	あまご・やまめ釣り大会開催回数	回	目標値	2	2	1
			実績値	2	2	1
活動指標	算出根拠等	大会開催回数	達成率(%)	100	100	100
			目標値	4,825	5,000	5,000
活動指標	遊漁証交付件数	人	実績値	5,501	5,131	4,807
			達成率(%)	114	103	96
成果指標	あまご・やまめ釣り大会参加者	人	目標値	140	100	70
			実績値	139	126	70
成果指標	算出根拠等	参加者数	達成率(%)	99	126	100
			目標値	50,000	50,000	50,000
成果指標	荘川町宿泊者数(1月~12月)	人	実績値	53,064	41,797	41,321
			達成率(%)	106	84	83
成果指標	イベント時宿泊売上推計	千円	目標値	1,050	525	525
			実績値	1,043	945	525
成果指標	算出根拠等	宿泊売上(推計)	達成率(%)	99	180	100
			目標値	140	100	70
成果指標	イベント時宿泊者数	人	実績値	139	126	70
			達成率(%)	99	126	100
補足事項						
昭和55年から開催されているイベントで、多くの釣り客がリピーターとなり毎年参加している。						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A) 499	300	148	
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
コスト指標	一般財源		499	300	148	
	受益者1件当たり(円)		(A/B) 3,590	2,381	2,114	
コスト指標	受益者					
	イベント参加者数		(B) 139	126	70	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・宿泊が条件のイベントで庄川漁業協同組合や荘川旅館組合などからのニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	C	・段階的に負担金を減らしており、27年度以降は自主事業として行う協議が行われた。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・毎年行っているイベントでリピーターも多く、イベント以外にも旅館や民宿へ宿泊され効果はある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・旅館組合が中心となりボランティアでイベントを準備し、コストの削減に努めた。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・イベントの開催により多くの釣りファンを呼び込み、イベント以外にも釣りに訪れる方が増えている。また、釣り以外にも各観光施設へ訪れるきっかけとなり、地域振興にもつながっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		6 / 10	→	100点換算 60 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・27年度以降は地域の自主事業として実施されることとなった。
---------------------------------------	--------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (ひだ荘川ふるさと夏まつり開催事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け の 予算	<input type="radio"/> A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	商工費		<input type="radio"/> B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	6	観光費		<input type="radio"/> C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		<input type="radio"/> D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全トヨタ労働組合連合会組合員・荘川町民	対象者数	326,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して飛騨荘川ふるさと村づくりの取り組みや、組合員のふるさととして多くの方に季節を問わず荘川へ訪れていただき、町民との交流による地域の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して夏に1泊2日の宿泊型イベントを開催(荘川地域の民謡による盆踊り会・花火打ち上げ・星空観察会・魚つかみ・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・平成26年7月26日(土)～27日(日)(1泊2日の開催) ・荘川地域の民謡による盆踊り会・花火打ち上げ・星空観察会 ・魚つかみ・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー・じゃがいも収穫体験					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント時参加者へのパンフレット配布組数	組	目標値	130	130	150
				実績値	130	150	112
	算出根拠等	配布数	達成率(%)	100	115	75	
	活動指標	荘川町宿泊者数(1月～12月)	人	目標値	50,000	50,000	50,000
				実績値	53,064	41,797	41,321
	算出根拠等	宿泊者数	達成率(%)	106	84	83	
	成果指標	組合員ふるさと村役場来村者数	人	目標値	6,400	6,400	6,500
				実績値	6,500	6,500	6,500
	算出根拠等	来村者数	達成率(%)	102	102	100	
	成果指標	ふるさと夏まつり参加者数	人	目標値	650	650	700
実績値				800	775	675	
算出根拠等	参加者数	達成率(%)	123	119	96		
成果指標	宿泊者数(イベント期間中)	人	目標値	550	550	600	
			実績値	550	625	504	
算出根拠等		達成率(%)	100	114	84		
補足事項							
・全トヨタ労連に加入している各労働組合が、定期的に荘川町で研修会やイベントを開催するため、宿泊施設や各商店など地域の活性化につながっている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 2,999	2,900	1,698		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,999	2,900	1,698		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 3,749	3,742	2,516		
	受益者	イベント参加者(7/26～7/27)	(B) 800	775	675		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・委託情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・全トヨタ労働組合の組合員が多く参加するイベントで、イベントに必要な材料はすべてを市内から購入している。地域の活性化につながりニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・全トヨタ労働組合は全国各地に組合員を持つている大きな組織で、毎年多くの組合員が第二のふるさととして荘川地域に訪れている。全トヨタ労働組合をイベントの主体として市が今後も連携を取り進めていく必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・一年を通して、組合員が荘川町を訪れ、宿泊施設や観光施設を利用している。また、各単体組織も研修会等に利用しており、成果が上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・イベント運営は、全トヨタ労連の運営委員の他、町内のボランティアで行っており、人件費の削減に努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・毎年多くの組合員が荘川地域を第二のふるさととして身近に感じ訪れまた全トヨタ労連の30万人を超える組合員に荘川地域が宣伝されており効果は大きい。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入)	・事業に対して荘川町まちづくり協議会からの支援により継続されることになった。 ・全国規模の全トヨタ労連の影響は大きく、毎年安定した集客数が見込まれるため、引き続きバックアップするとともに、より多くの組合員が訪れるよう地域の魅力の紹介が必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/> O	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/> O	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (ひだ荘川ふるさと雪まつり)		担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全トヨタ労働組合連合会組合員・荘川町民	対象者数	326,000 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して飛騨荘川ふるさと村づくりの取り組みや、組合員のふる里として多くの方に季節を問わず荘川へ訪れていただき、町民との交流による地域の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・全トヨタ労働組合連合会と連携して冬に1泊2日の宿泊型イベントを開催(雪遊び、地元の食材や郷土料理によるバーベキュー)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・平成27年2月21日(土) (1泊2日の開催) ・雪遊び・雪像作り・昔ながらの臼と杵での餅つき・地元の食材や郷土料理によるバーベキュー・星空観覧					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント時パンフレット配布枚数	組	目標値	40	40	30
				実績値	30	29	36
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)	75	73	120
				荘川町宿泊者数(1月～12月)	人	目標値	50,000
	活動指標	算出根拠等		実績値	53,064	41,797	41,321
				達成率(%)	106	84	83
	成果指標	組合員ふるさと村役場来村者数	人	目標値	6,400	6,400	6,500
				実績値	6,500	6,500	6,500
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	102	102	100
				ふるさと雪まつり参加者数	人	目標値	270
	成果指標	算出根拠等		実績値	260	285	275
				達成率(%)	96	106	106
	成果指標	宿泊者数(イベント期間中)	人	目標値	150	150	150
実績値				160	134	170	
成果指標	算出根拠等		達成率(%)	107	89	113	
			目標値				
成果指標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
・全トヨタ労連に加入している各組合が、定期的に荘川町で研修会やイベントを開催するため、宿泊施設や各商店など地域の活性化につながっている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 1,001	1,000	1,053		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		1,001	1,000	1,053		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 3,850	3,509	3,829		
	受益者	イベント参加者(2/21)	(B) 260	285	275		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・全トヨタ労働組合の組合員が多く参加するイベントで、イベントに必要な材料はすべてを市内から購入している。地域の活性化につながりニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・全トヨタ労働組合は全国各地に組合員を持っている大きな組織で、毎年多くの組合員が第二のふるさととして荘川地域を訪れている。全トヨタ労働組合と市が今後も連携を取り進めていく必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・一年を通して、組合員が荘川町を訪れ、宿泊施設や観光施設を利用して、各単体組織も研修会等に利用しており、成果が上がっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・イベント運営は、全トヨタ労連の運営委員の他、町内のボランティアで行っており、人件費の削減に努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・毎年多くの組合員が荘川地域を第二のふるさととして身近に感じ訪れまた全トヨタ労連の30万人を超える組合員に荘川地域が宣伝されており効果は大きい。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・事業に対して荘川町まちづくり協議会からの支援により継続されることになった。 ・全国規模の全トヨタ労連の影響は大きく、毎年安定した集客数が見込まれるため、引き続きバックアップするとともに、より多くの組合員が訪れるよう地域の魅力の紹介が必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	21899	地域自然環境保全事業費 (ササユリ群生地保護活動助成事業)	担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3312
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18 環境政策費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町惣則町内会住民	対象者数	67 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・全国的にも年々減少傾向にある「ササユリ」の保護及び育成 ・景観重点区域の保全のため、電牧柵の設置、雑木撤去、草刈、群生地地の監視など地域が一丸となって活動実施 ・ササユリの保護及び育成を通して、惣則地区の景観保全や、地域住民の協調性を再確認し、自然と共存するやさしいまちづくりを目指す		
概要	事業の実施手法(手段)	・電牧柵の設置及び撤去 ・地域内の雑木撤去及び草刈り ・地域内の監視及び手入れ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・電牧柵の設置及び撤去、雑木除去や草刈などの清掃管理など、地域が一丸となって保護活動を実施 ・開花時期に訪れる観光客が集落の魅力を感じ、楽しんでいただくきっかけ作りのため、ハンフレットや「ささゆり群生地周辺マップ」の配布等、積極的に案内を行っている ・ササユリ保護・育成活動を通じ、農山村景観の保全の大切さを再認識し、地域住民が一体となって取り組んでいる					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	清掃・草刈活動(4月から9月:毎月)	回	目標値	6	6	6
				実績値	6	6	6
	活動指標	算出根拠等	実施回数	達成率(%)	100	100	100
				電牧柵設置・撤去等	回	目標値	2
	活動指標	算出根拠等	実施回数	実績値	2	2	2
				達成率(%)	100	100	100
	成果指標	ササユリの開花数	本	目標値	10,000	10,300	10,300
				実績値	10,000	10,000	10,000
	成果指標	算出根拠等	開花数	達成率(%)	100	97	97
				観光客数	人	目標値	900
	成果指標	算出根拠等	観光客数			実績値	900
				達成率(%)	100	73	126
	成果指標	算出根拠等	目標値	実績値			
達成率(%)							
成果指標	算出根拠等	目標値	実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
・惣則地区は19世帯の小さな集落であるが、地域の誇りとしての「景観形成」(景観重点区域)や「宝」であるササユリを懸命に守っている。 ・周辺の草刈り(毎月)、ササユリの開花時期にはハンフレットの配布や観光案内などにより、訪れる人々を歓迎している。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	130	130	130	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			130	130	130	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,940	2,063	1,970	
	受益者		(B)	67	63	66	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・全国的にも年々減少傾向にある「ササユリ」であるが、地域ぐるみで保護・育成に取り組んでおりニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・自然と共存する環境保全活動であり、自主的な活動に対し支援する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・ササユリ保護に関して、周囲の草刈りや電牧柵の設置が行われ、被害を防いでいるとともに開花時には多くの観光客が訪れ、その数は増加している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・群生地(約5.5a)の電牧柵・草刈りなど、最小限の経費で保護活動を行っている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・景観重点区域であり、ササユリの保護活動を行っていることにより、地域に残る美しい農山村景観の保全が進められている ・個性ある景観の保全及び「北野農村公園」の活用につながっている
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・惣則町内会の高齢化が進んでおり、後継者不足による保全活動が難しくなっている。高山市の一色・惣則景観重点区域に指定されており、地域の自主事業として荘川町まちづくり協議会が引き続き支援を行うこととなった。

(参考)
H26事業評価結果(二次評価)

・26年度終了

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

・26年度終了

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	荘川支所 地域振興課	内線
	番社				3322
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
根拠計画	高山市老人福祉計画・第6期介護保険事業計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開まちづくへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支えるうえで大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人権費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
				算出根拠等	目標会員数/会員数の実績		達成率(%)
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	138
				実績値	139	138	137
				算出根拠等	目標クラブ数/クラブ数の実績		達成率(%)
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
				実績値	38	37	37
				算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口		達成率(%)
	活動指標	荘川地区連合長寿会会員数	人	目標値	250	250	250
				実績値	227	230	221
				算出根拠等	目標会員数/会員数の実績		達成率(%)
	活動指標	荘川地区連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	4	4	4
				実績値	4	4	4
				算出根拠等	目標クラブ数/クラブ数の実績		達成率(%)
	成果指標	荘川地区連合長寿会加入率	%	目標値	50	50	50
				実績値	49	50	40
				算出根拠等	目標会員数/会員数の実績		達成率(%)
補足事項							
高山地域全体の指標に加え、荘川地区の指標も掲載。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			150	149	149	
	一般財源			270	271	271	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,850	1,826	1,900	
	受益者		荘川地区会員数(4月1日現在)	(B)	227	230	221

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が、住み慣れた地域で他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入率は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ数及び加入率は、減少傾向であるため、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・市全体として新規加入者の割合が減少しており、連合長寿会会員加入率と単位クラブの減少が課題となっている。健康で生きがいを持ちながら生活するために、地域とのつながりを深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (荘川桜観光対策事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3332
予算	会計	1	一般	特別 予算 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川桜来客数	対象者数	46,001 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	樹齢500年以上の荘川桜が開花する4月下旬から5月上旬は多くの観光客が荘川に訪れる。岐阜県の三大桜として有名な荘川桜を観光資源とし活用し誘客を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 交通案内看板の設置 荘川桜公園駐車場の交通警備委託 駐車場環境整備(仮設トイレの設置) 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	平成26年4月19日～5月11日まで ・交通案内看板の設置と荘川桜案内ガイド委託 ・荘川桜公園駐車場の交通警備委託(うち11日間) ・駐車場環境整備(仮設トイレの設置)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	荘川桜開花時交通警備業務日数	日	目標値	16	17	12
				実績値	16	12	11
	算出根拠等	交通警備業務日数		達成率(%)	100	71	92
	成果 指標	荘川桜来客数	人	目標値	50,000	50,000	40,000
				実績値	38,759	33,075	46,001
	算出根拠等			達成率(%)	78	66	115
	成果 指標	荘川町内4・5月の観光客入込数	千人	目標値	200	200	110
				実績値	110	102	117
	算出根拠等	観光客入込客数		達成率(%)	55	51	106
	成果 指標	荘川桜二世苗木配布本数(延べ)	本	目標値	3,200	3,300	3,600
実績値				3,390	3,400	3,627	
算出根拠等	配布本数		達成率(%)	106	103	101	
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・荘川桜二世を育て、希望者に配布し桜の移植物語を全国に発信している。 ・荘川桜二世苗木配布本数(延べ)は電源開発機への配布本数は含んでいない。 							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,821	1,574	1,625	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,821	1,574	1,625	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	47	48	35	
	受益者		(B)	38,759	33,075	46,001	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・荘川桜は岐阜県の三大桜にもあげられ有名な桜となった。移植の物語が残る桜で、開花時には多くの観光客で賑わいニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・荘川桜の開花時には多くの観光客が訪れるが、駐車場が狭く駐車可能台数も少ないため、混雑を避けるためには警備員の配置により安全の確保は必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・荘川桜開花時は連休中となり、交通量が増加する時期となるが、警備員を配置することで、国道の渋滞を緩和し安全が確保された。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・桜の開花時期にあわせ、混雑する期間に限定し警備員の配置をしており縮減の余地がない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・荘川桜の開花時には多くの観光客が訪れるため、駐車場の警備を始め、桜までの案内看板の設置、仮設トイレの設置を行い、環境整備を行うことで、観光客の安全確保に効果的であった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・引き続き開花に合わせた対応が必要である。
---------------------------------------	-----------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	地域道路橋りょう管理振興事業費 (市道未登記用地測量事業)	担当課	荘川支所 基礎産業課	内線 3341
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 算 入	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	7 土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 道路橋りょう総費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川地域住民	対象者数	1,175 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	未登記路線を整理し、市道の適切な管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	市道未登記箇所の測量を行い、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	・市道野々俣6号線(面積測量:200.59㎡ 登記済数:1筆) ・市道平頭町屋線(登記済数:3筆) ・市道野々俣10号線(面積測量:838.99㎡ 登記済数:2筆) ・市道六殿1号線(調査業務)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	対象路線数	本	目標値	1	3	6
		実績値			1	3	4
	算出根拠等	実施路線数/目標路線数		達成率(%)	100	100	67
		面積測量	㎡	目標値	2,537	67,368	2,650
	算出根拠等	実施面積/目標面積		実績値	1,713	55,815	4,205
		達成率(%)			68	83	159
	成果 指標	登記済筆数	筆	目標値	13	34	20
		実績値			1	23	8
	算出根拠等	実施登記済筆数/目標登記済筆数		達成率(%)	8	68	40
		目標値					
	算出根拠等	実績値					
		達成率(%)					
	算出根拠等	目標値					
実績値							
算出根拠等	達成率(%)						
	目標値						
算出根拠等	実績値						
	達成率(%)						
補足事項							
未登記路線(15路線)の状況は、登記完了路線10路線、一部完了5路線である。H27年度からこの他の未登記路線にも着手する。							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,186	6,596	3,281	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			4,186	6,596	3,281	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3,286	5,393	2,725	
	受益者	荘川町住民	(B)	1,274	1,223	1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・未登記路線を整理することにより、関係地権者の権利トラブルを防止し、地域の通行権を確保することにつながる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・従前から公用に供されており市道認定の手続きがされていることから、適正な道路管理を行う必要があることから市で実施する。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・地権者の不在、相続等で対象を確定する手続きに相当の期間を要する。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・権利関係者の境界立会、境界復元に専門知識が必要であるため、調査・測量申請手続き等は一括して土地家屋調査士協会と単価契約を結び業務を遂行している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市道の未登記状態の解消につながった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・過去の経緯が不明なため、理解していただけないケースがある。 ・字絵図に不接合の箇所があるため民境界の確定に時間を要する。 ・未相続の共有地もあるため相続、分筆登記、所有権移転に時間を要する。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
-------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3312
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業	
	根拠計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川地域住民	対象者数	1,175 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・高山市民憲章の具現化に努め、明るい環境づくりを推進する。 ・花を育てることで広がる地域内のコミュニケーションづくりを推進する。 ・環境整備とコミュニケーションづくりを継続していき、住みよい地域をつくる。		
概要	事業の実施手法(手段)	道路沿線及び地域花壇(16地区)の花苗、肥料等の購入と、公共花壇の管理委託 ○花苗の購入：(春)マリーゴールド、ニチニチソウ、(秋)パンジー、チューリップ ○肥料の購入：苦土石灰、発酵鶏糞、油粕、腐葉土、化成肥料 ○消耗品の購入：黒マルチ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・道路沿線及び地域花壇(1,216.6㎡)の花苗、肥料等の購入。 ・公共花壇の管理委託					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	肥料・花苗配布件数	件	目標値	16	16	16
				実績値	16	16	16
	算出根拠等	配布先(町内会)件数の達成率		達成率(%)	100	100	100
				目標値	35,546	34,056	28,360
	活動指標	花苗等配布本数	本	実績値	35,546	34,056	28,360
				達成率(%)	100	100	100
	算出根拠等	花苗配布本数の達成率		目標値	1,523	1,391	1,217
				実績値	1,391	1,391	1,217
	活動指標	花壇面積	㎡	達成率(%)	91	100	100
				目標値			
	算出根拠等	花壇面積調査(支所実施)		実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
・花を育てることで、地域愛を再確認し、地域内のコミュニケーションを深めることに役立った。また国道沿線の花壇を美しくすることが訪れる人々への心地よい空間の提供(おもてなし)につながっており、来訪者からの評判も良い。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,927	1,573	1,424	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,927	1,573	1,424	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,513	1,286	1,183	
	受益者	荘川地域住民	(B)	1,274	1,223	1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・良好な生活環境の向上、景観を保全するため花で飾られる明るい環境づくりへのニーズが高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・町内会が主体となって実施する事業で、地域コミュニティを深める役割も大きい事業である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・花苗や肥料等の一斉配布により、町内全域で花壇管理が実施され、地域全体が花で飾られ明るい環境づくりが実践されている。また地域のコミュニケーションづくりの機会となっており効果は大きい。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・町内会への花壇管理の委託料を廃止する等、コスト縮減を図った。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・全町内で花壇管理が実施され、地域全体が花で飾られ明るい環境づくりが実践されている。また地域のコミュニケーションづくりの機会となっており効果は大きい。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・高山市民憲章推進協議会の「花いっぱい運動」から支援を受け、全市花苗配布基準に基づき引き続き実施されることとなった。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化振興事業		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3321
予算	会計	1	一般会計	特別予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,175 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	芸術文化に触れる機会の充実と地域に根ざした文化振興を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する助成 ・文化講演会、文化祭(文化展)の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・平成26年11月29日(土) 文化講演会開催(講師:アグネス・チャン氏) ・平成26年11月2日(日)~3日(月) 文化展開催 ・平成26年11月3日(月) 荘川郷土芸能祭開催					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	文化講演会チラシ配布枚数	枚	目標値	900	900	900
				実績値	900	900	900
	活動指標	算出根拠等 配付枚数	枚	達成率(%)	100	100	100
				目標値	700	700	700
	活動指標	文化展チラシ配布枚数	枚	実績値	700	700	400
				達成率(%)	100	100	57
	成果指標	文化講演会入場者数	人	目標値	150	150	150
				実績値	270	80	240
	成果指標	算出根拠等 入場者数	人	達成率(%)	180	53	160
				目標値	350	350	350
	成果指標	文化展入場者数	人	実績値	250	330	400
				達成率(%)	71	94	114
	成果指標	算出根拠等 入場者数	人	目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等	人	達成率(%)				
			目標値				
補足事項							
・荘川町民の皆さんが直に聞くことのできない著名人による講演会の開催 ・文化展は荘川町民が作った作品の展示等、活動成果を披露する場となっている							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 1,100	1,100	1,100	1,100	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		1,100	1,100	1,100	1,100	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 863	899	914		
	受益者 荘川町民(4月1日現在)		(B) 1,274	1,223	1,204		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・荘川地域で普段聞くことができない著名人による講演を開催したことにより、町民がボランティア活動の尊さと大切さを学ぶことができた ・文化展や芸能祭を開催したことで、町民が日頃の学習の成果を発表することができ、芸術文化に触れる機会の充実と地域に根ざした文化振興を図ることができた
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する必要な支援であり、地域に根ざした文化振興を図ることができた
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・文化講演会、文化展、芸能祭に地域の子どもから高齢者までが集い、地域全体で文化振興の向上が図られた
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト意識を持ち、実施主体である荘川地区社会教育運営委員会と連携を図りながら実施した
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・荘川地域の伝統文化の振興の充実を図る貴重な機会となっており、当初予定よりも多くの住民に参加していただくことができた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の自主事業として実施することとなった。
---------------------------------------	------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)	課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	荘川文化財保存振興事業 (荘川民謡保存会助成事業)		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3312
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川民謡保存会会員及び中学生(保存会参加者)	対象者数	59 人
概要	どういう状態にしたいのか(意図)	・市無形文化財「荘川民謡」の保存活動を行っている団体に対して活動助成し、伝統芸能「荘川民謡」の保存や継承を推進することや、地域の子供たちに伝え後継者を育成する。		
	事業の実施手法(手段)	・小中学校を対象とした後継者育成のための郷土学習開催 ・イベントなどでの荘川民謡披露 ・民謡衣装等の保存管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	各種イベント時に民謡披露(ふるさと夏祭り、荘川ふるさと祭り、新成人を祝うつどい、町内芸能発表会等) ・中学校に会員を派遣し郷土芸能の伝承活動					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	民謡練習回数	回	目標値	12	12	12
				実績値	12	14	12
	算出根拠等	月1回の練習	回	達成率(%)	100	117	100
				目標値	8	8	8
	活動指標	中学生を対象とした郷土民謡の指導	回	実績値	5	6	4
				達成率(%)	63	75	50
	算出根拠等	中学校への訪問回数	回	目標値	6	6	6
				実績値	5	5	5
	成果指標	各イベントでの出演回数	回	達成率(%)	83	83	83
				目標値	30	26	39
	算出根拠等	荘川町民謡披露回数	回	実績値	30	26	39
				達成率(%)	100	100	100
	成果指標	中学生の保存会参加人数	人	目標値			
実績値							
算出根拠等	中学生参加者数	人	達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等		回	実績値				
			達成率(%)				
算出根拠等		回	目標値				
			実績値				
算出根拠等		回	達成率(%)				
			目標値				
補足事項							
・後継者育成のため、荘川中学校の総合学習の一環として指導している。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	45	45	45	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			45	45	45	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,047	978	763	
	受益者		荘川民謡保存会会員及び中学生 (B)	43	46	59	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・少子高齢化による後継者不足が深刻化しているなか、荘川町の郷土芸能を後世に伝えるための育成指導が必要であり、ニーズは非常に高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・郷土の伝統文化を守り伝える活動に対する支援
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・後継者育成のために中学生を対象とした指導を行っており、全員が踊ることができるようになっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・後継者育成のために中学生を指導し、その成果を発表できるものとなっている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・伝統文化の保存・継承における重要な役割を担っている
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・郷土芸能を後世に守り伝えていくため担い手・後継者を育成する必要がある
---------------------------------------	-------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
-------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	文化財標柱設置事業		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3312
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画、高山市環境基本計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(1月～12月)	対象者数	397,877 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・指定文化財について、訪ずれる全ての方に歴史・文化に親しみ理解いただき、学ぶ環境の場を提供するため標柱を設置する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・過去に設定されているものは木製で老朽化が著しいため、恒久的な石製の標柱に更新する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・文化財標柱を2箇所に設置					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	文化財標柱設置本数	本	目標値	4	2	2
				実績値	4	2	2
	算出根拠等	設置本数		達成率(%)	100	100	100
				計画に対する標柱の設置本数	目標値	27	16
	成果指標	計画に対する標柱の設置本数	%	実績値	10	12	14
				算出根拠等	設置本数	達成率(%)	37
	算出根拠等	設置本数		目標値			
				実績値			
	算出根拠等	設置本数		達成率(%)			
				目標値			
	算出根拠等	設置本数		実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等	設置本数		目標値			
実績値							
算出根拠等	設置本数		達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等	設置本数		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
・歴史的に価値のある文化財を後世に引き継ぐため、文化財への理解を高め保存意識の向上を図る。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	756	389	394	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			756	389	394	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2	1	1	
	受益者	観光客(1月～12月)	(B)	393,835	385,424	397,877	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・文化財を訪れる観光客から、場所等の問い合わせが多く設置の要望がある ・市民からは、文化財を保存・継承するため設置に関する要望もあり、ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域が主体となり管理を行っているが、市の指定文化財であることや親しみを理解する機会を充実するため実施する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・毎年度計画的に設置している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・市域全体で共通の仕様書により発注を行っており、コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・標柱の設置は、文化財を守り次代へ継承する取り組みとして効果がある
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・設置計画に基づき平成26年度で事業完了
---------------------------------------	----------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	荘川支所 地域振興課	内線
	95199				3321
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画	高山市スポーツ振興計画、地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,175 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・各種スポーツ大会を開催することで、スポーツと触れ合う機会から町民の健全な心と体を鍛えようと、一人1スポーツの重要性が認識され、健康で明るい地域づくりを推進する		
概要	事業の実手法(手段)	・事業主体: 荘川地区社会教育運営委員会 ・開催時期: 随時(年間) ・事業内容: 各種スポーツ大会開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・バレーボール大会、ゲートボール大会、ソフトボール大会、グラウンドゴルフ大会、ファミリー駅伝大会、バドミントン大会、剣道大会、スキー大会の開催。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スポーツ大会実施回数	回	目標値	8	8	8
				実績値	8	8	8
	算出根拠等	町民大会開催回数		達成率(%)	100	100	100
	活動指標	参加者数	人	目標値	460	460	460
				実績値	479	400	460
	算出根拠等	全競技参加者数		達成率(%)	104	87	100
	成果指標	平均参加者数	人	目標値	80	80	80
				実績値	60	50	58
	算出根拠等	スポーツ大会参加者数/開催数		達成率(%)	75	63	72
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
・各種スポーツ大会を行うことによりスポーツと触れ合う機会を充実し、町民の誰もが参加しやすいスポーツ大会となるようにしている ・スキーや剣道など全国レベルの大会に中学生が出席するなど競技力の向上にも繋がっている							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	300	150	150	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			300	150	150	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	235	123	125	
	受益者		荘川町民(4月1日現在)	(B)	1,274	1,223	1,204

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・各種スポーツ大会への参加者が固定される傾向にあるため、新規参加者の勧誘や今後のPRやニーズに応じた企画が必要である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・地域が主体となって取り組むスポーツ振興事業に対する必要な支援であり、支援によりスポーツを通じた健康で明るい地域づくりを図ることができた
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・各種スポーツ大会を通じ一人1スポーツの推進が図られ、更には全国に通じる競技力の向上が図られた
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・コスト意識を持ち、実施主体である荘川地区社会教育運営委員会と連携を図りながら事業実施
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境を作るため、スポーツ活動の充実が図られた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・健康で明るい地域づくりを推進するため、地域の自主事業として実施されることとなった。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	ひだ清見お祭りキャンペーン事業 (清見・荘川連携事業)	担当課	荘川支所 基盤産業課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3231
予算	会計	1	項目	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6	目	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2	算出根拠	O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	1	観光振興費	D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見・荘川住民	対象者数	3,706 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川地域と連携して、せせらぎ街道・やまびこ街道・さくら街道の利用者増を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・荘川・清見観光客誘致推進協議会を核にキャンペーンの実施・誘客用パンフレットの印刷等を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	観光マップの増刷 誘客キャンペーンの実施					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	観光マップ配布枚数	枚	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	10,000	10,000	11,000
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	誘客キャンペーン実施回数	回	目標値	3	3	3
				実績値	4	3	2
				算出根拠等	達成率(%)	133	100
	成果指標	清見町入込客数(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅ななもり清見入込客数)	人	目標値	480,000	480,000	480,000
				実績値	429,564	416,078	367,089
				算出根拠等	達成率(%)	89	87
	成果指標	入込客数前年比(道の駅バスカル清見・ウッドフォーラム飛騨・道の駅ななもり清見入込客数)	%	目標値	92	112	115
				実績値	100	97	88
				算出根拠等	達成率(%)	109	87
	成果指標	荘川町観光客入込客数(1月~12月)	人	目標値	460,000	460,000	460,000
実績値				393,835	385,424	397,877	
算出根拠等				達成率(%)	86	84	86
算出根拠等			目標値				
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,000	1,000	1,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,000	1,000	1,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	11	11	11		
コスト指標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・春の桜・秋の紅葉等の誘客により、地域の活性化につながり、市民のニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市と民間がそれぞれ主体となって行うべきものの整理が必要。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	26年8月の豪雨災害の影響を受け、目標には達しなかったが、今後も引き続き観光キャンペーンなどにより、地域の魅力をPRしていく必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・荘川地域、清見地域の関係機関と連携して協議会を設立し、事業を行うことで、市長の公約に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		8 / 10	→	100点換算 80 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・両地域への誘客により地域活性化に繋げるためにも、事業の内容や方向性を検討する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62399	地域観光施設事業 (荘川の里整備事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3331
予算	会計	1	一般関係	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	観光施設費		D	その他事業	
根拠計画	第七次総合計画(後期)、実施計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用客数(4月~3月)	対象者数	13,491 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・老朽化が著しい「ふれあい橋」の木製部分を取り替えることで、施設利用者の安全が確保される。 ・植樹されている樹木の巨大化により、景観の悪化を招くとともに入館者へ枝等が落下する危険性があるため、整備することで入館者の安全を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ふれあい橋の木製部分(欄干、床版等)の修繕 ・枯損木・支障木の伐採		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 指 標	H26の実績	・ふれあい橋の木製部分(欄干、床版等)の修繕 L=50m ・枯損木・支障木の伐採 N=65					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	施設利用客数(4月~3月)	人	目標値			4,500
		算出根拠等	観光客入込客数	実績値			6,316
	成果指標	算出根拠等	観光客入込客数	達成率(%)			140
		施設利用者数	ふると祭り来場者数	目標値			5,500
	成果指標	算出根拠等	当日来場者数	実績値			6,500
		算出根拠等	当日来場者数	達成率(%)			118
	成果指標	施設利用者数	ふると夏祭り来場者数	目標値			800
		算出根拠等	当日来場者数	実績値			675
	成果指標	算出根拠等	当日来場者数	達成率(%)			84
		算出根拠等		目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等		目標値			
算出根拠等			実績値				
成果指標	算出根拠等		達成率(%)				
	算出根拠等		目標値				
成果指標	算出根拠等		実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
補足事項							
・ふれあい橋は荘川の里からふると祭り会場に通じる唯一の移動路であり、施設開園時やイベント期間中、非常に多くの人の往来がある。また、園内の木々は、巨大化・枯化により景観の悪化及び枝の落下による事故の恐れがあった。							
コスト 内 訳	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	14,099	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					14,099	
コスト 指 標	受益者1件当たり(円)		(A/B)			1,045	
	受益者	施設利用客数(4月~3月)	(B)			13,491	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・来場者の安全確保、景観の配慮については、荘川の里来場者やイベント等の来場者へのニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理する施設であるため妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・老朽化の著しい橋の修繕を行ったことにより、来場者の安全が確保され景観が良好となった。 ・枯木等の伐採により来場者の安全の確保、また、景観が良好となった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・使用材料の検討等を行い、コスト削減に努めた。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・来場者の安全確保、景観の向上により今後の集客に繋がる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・園内施設については、定期的な維持補修により保守を図る必要がある。
---------------------------------------	-----------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74799	地域快適環境整備振興事業費 (沿道修景整備事業)	担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3312
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 都市計画費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 快適環境整備費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画、高山市環境基本計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(1月~12月)	対象者数	397,877 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・国道156・158号線沿線及び荘川町内の市道等の環境整備(草刈り)を実施し、不法投棄の防止及び沿道の環境美化により「すみやすさ」を感じられるまちづくりを目指す		
概要	事業の実施手法(手段)	・沿道修景整備(草刈り)		

2 事業の推移・結果(Do)

目的	H26の実績	・国道158号線外沿線の環境整備(草刈り)					
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果 指標	活動指標	沿道修景整備(草刈り)	ha	目標値	3	3	3
				実績値	3	3	2
	算出根拠等	整備面積	達成率(%)	100	100	67	
				目標値	460,000	460,000	460,000
	成果指標	観光客数(荘川地域1月~12月)	人	実績値	393,835	385,424	397,877
				達成率(%)	86	84	86
	算出根拠等	観光客入込数(1月~12月)	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
	成果指標	不法投棄	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
算出根拠等	不法投棄件数	達成率(%)	100	100	100		
			目標値				
算出根拠等		達成率(%)	100	100	100		
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)	100	100	100		
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)	100	100	100		
			実績値				
補足事項							
・環境美化意識の向上、外来植物の駆除							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 1,869	1,785	1,890		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		1,869	1,785	1,890		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 5	5	5		
	受益者	観光客(1月~12月)	(B) 393,835	385,424	397,877		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・環境美化活動が、高齢化により実施できない箇所があり、市民からのニーズが高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・高齢化のため実施できない要望箇所を実施 ・不法投棄防止の啓蒙推進
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・環境保全や不法投棄防止及び外来植物の駆除にも寄与している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・市民要望に対応した実施箇所の検討及び適切な時期に実施している
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・環境保全が住みよいまちづくりの目的に合致している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・沿道景観の保全に対する住民要望も強く、地域の自主事業として実施されることとなった。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	92199	地域小学校管理事業費 (黒谷地域生活環境整備事業)		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3321
予算	会計	1	一般会計	特別予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	学校管理費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,175 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・荘川プールを解体・撤去し、地域住民が安心して生活できる環境を整え、農山村景観の保全を図る		
概要	事業の実手法(手段)	・荘川プールの解体・撤去		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・荘川プール解体工事に係る設計及び監理業務委託 一式 ・荘川プール解体工事(プール解体、機械室解体、外溝工事) 一式					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	荘川プールの数	施設	目標値			1
				実績値			1
	算出根拠等	解体・撤去対象のプール数		達成率(%)			100
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
補足事項							
・大雪による工程の遅れもなく計画的に実施							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	10,530	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					10,530	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)		8,746		
指標	受益者	荘川町民(4月1日現在)	(B)		1,204		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域住民の要望により実施
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設であるため、市が解体撤去の必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・使用していないプールを解体・撤去
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・入札により、設計管理業務委託及び工事を適正に執行した
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・未利用財産の処分
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	92299	地域小学校教育振興事業費 (新島小学校交流推進事業)	担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3321
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 教育振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川小学校6年生	対象者数	15 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・荘川小学校と東京都新島小学校との交流を深めることは、相互の伝統・文化・習慣などを学び、広い視野に立ち郷土を理解することができる ・義民甚兵衛と孝子勘左衛門の遺徳を偲び、数々の体験や感動の中から郷土愛や親子の絆を深める		
概要	事業の実施手法(手段)	・荘川小学校が東京都新島小学校を訪問し交流を行う ・実施期間:平成26年7月 場所:東京都新島小学校 対象:荘川小学校6年生全員12名・引率3名・新島研修に向けての事前学習・たからもの発表会(学習発表会)実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・実施期間:平成26年7月19~21日 2泊3日 ・場所:東京都新島小学校 ・対象:荘川小学校6年生12名・引率3名 ・たからもの発表会(平成27年2月27日)開催					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	新島交流参加者数	人	目標値	12	22	15
				実績値	12	22	15
	算出根拠等	小学校6年生児童及び引率者	達成率(%)	100	100	100	
			目標値	100	100	100	
	成果指標	新島交流参加率	%	目標値	100	100	100
				実績値	100	100	100
	算出根拠等	研修参加児童等/研修対象児童等	達成率(%)	100	100	100	
			目標値	200	200	200	
	成果指標	たからもの発表会(学習発表会)参加者数	人	目標値	200	150	150
				実績値	200	150	150
	算出根拠等	たからもの発表会参加者数	達成率(%)	100	75	75	
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
達成率(%)							
算出根拠等		目標値					
		実績値					
算出根拠等		達成率(%)					
		目標値					
算出根拠等		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
・新島小学校との交流を行うことにより郷土愛や親子の絆を深める							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	720	520		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		420	720	520		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 35,000	32,727	34,667		
	受益者	荘川小学校6年生及び引率者 (B)	12	22	15		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・荘川町の小学生が新島へ行くことにより荘川の歴史の勉強や市民相互のふれあい、交流を通じ、荘川に住み続けたいという思いを育てており、当事業に対する住民の思いは強い ・たからもの発表会(学習発表会)において、保護者や住民の方に対し、自分たちが学んだ新島研修について発表している
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・郷土の歴史に触れることにより、地域を愛する心を育てることができた
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・荘川町と新島村との交流事業を通じて郷土愛を育むことができ、その結果が「たからもの発表会」で聞くことができた ・「たからもの発表会」(学習発表会)において、今年度新島交流を行ったことに対して学んだことを保護者や地域の方に見ていただき、交流参加者以外にとっても郷土愛を深めることに役立っている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・1人あたりの適正な研修単価を考慮し実施しており、妥当であるが、保護者の負担を軽減するためコスト削減に努める必要がある
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・荘川町と新島村の子どもたちの交流を深めることにより、郷土愛の醸成が図られた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の自主事業として実施することとなった。
---------------------------------------	------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (広域連携誘客推進事業)		担当課	荘川支所 基盤産業課	内線	3332
予算	会計	1	一般	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川地域の観光客入込数(1月～12月)	対象者数	397,877 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	国道156号の利用客を増やすため、郡上市高鷲町・大野郡白川村・荘川町の3地域が連携し国道沿線の観光資源を利用して、点ではなく線で観光の誘客を進める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・3地域(高鷲・荘川・白川)の観光施設等を紹介した周遊マップの作成。 ・国道156号(さくら街道)をPRし、多くの観光客に周遊してもらうため観光施設を回る「さくら街道スタンプラリー」の実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	①高鷲・荘川・白川連携誘客推進事業 「3地域周遊ドライブマップ」の作成 ②荘川・白川連携誘客促進事業 「さくら街道スタンプラリー」の実施					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スタンプラリー・周遊マップ配布枚数	枚	目標値	50,000	50,000	24,000
				実績値	32,100	32,100	24,100
	算出根拠等		配布枚数	達成率(%)	64	64	100
	活動指標	スタンプラリー・周遊マップ配布箇所	箇所	目標値	36	35	35
				実績値	36	35	35
	算出根拠等		配布箇所	達成率(%)	100	100	100
	成果指標	スタンプラリー参加者	人	目標値	1,500	1,500	1,600
				実績値	1,512	1,438	1,324
	算出根拠等		参加者	達成率(%)	101	96	83
	成果指標	観光客入込客数(1～12月)	人	目標値	460,000	460,000	400,000
				実績値	393,835	385,424	397,877
	算出根拠等		観光客入込調査	達成率(%)	86	84	99
	成果指標	国道158号交通量(8月14日～15日調査)	台	目標値	3,000	3,000	3,500
実績値				2,867	3,550	4,627	
算出根拠等		交通量調査結果(お盆)	達成率(%)	96	118	132	
算出根拠等			目標値				
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
・国道156号沿線の郡上市高鷲町・白川村・荘川町の3地域が連携をとり、広域的な誘客を図ることができた。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	721	570	549	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			721	570	549	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	477	396	415	
	受益者	スタンプラリー参加者	(B)	1,512	1,438	1,324	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・高鷲・荘川・白川地域が連携し誘客を行う事で、広域的に地域の魅力をアピールできる。3地域の評価も良くニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	C	・今後、観光協会の単独事業として実施する協議が行われた。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・スタンプラリーを実施することで、さくら街道の良さを知り、スタンプラリー実施期間外の桜の時期や紅葉の時期にも国道156号を利用してもらえ成果は上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・3地域が負担金を出し実施している事業で、パンフレットの単価を下げスタンプラリーの台紙の印刷枚数の見直しなど行いコスト削減に努めた。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	・広域で行う事で、観光客が目的地以外にも近くの観光施設へ立ち寄るきっかけとなり効果は出ている。また、白川郷を利用した観光客が荘川地域へ訪れ、広域的な誘客ができた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・荘川町まちづくり協議会からの支援により継続されるが、近隣市村の地域が連携し誘客効果を高める必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	地域文化財保存振興事業 (化石を活用した地域振興事業)	担当課	荘川支所 地域振興課	内線
	94799				3321
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	7 文化財課		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 化石フォーラムを開催し、高山市の化石を全国発信し地域振興に繋げる 郷土の自然遺産に誇りを持つ子どもたちを育てながら次世代の担い手を育成する 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 国立科学博物館や京都大学などの各研究機関との連携を密にし、研究者と協力して化石フォーラム及び市民を対象にした化石教室を開催する 市民が参加しやすい化石発掘教室を開催する 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 化石フォーラムの開催(8/10) 化石発掘教室の開催(10/5,10/18,10/26,11/9) 					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	化石フォーラム開催回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
	算出根拠等	化石フォーラム開催回数	達成率(%)	100	100	100	
	活動指標	化石発掘教室開催回数	回	目標値	3	5	4
				実績値	4	5	4
	算出根拠等	化石発掘教室開催回数	達成率(%)	133	100	100	
	活動指標	化石フォーラム講師招聘人数	人	目標値	8.0	8	8
				実績値	8	8	8
	算出根拠等	化石フォーラム講師数	達成率(%)	100	100	100	
	成果指標	化石フォーラム参加者数	人	目標値	100	70	70
				実績値	120	80	101
	算出根拠等	化石フォーラム参加者数	達成率(%)	120	114	144	
	成果指標	化石発掘教室参加者数(延べ人数)	人	目標値	60	75	60
実績値				69	75	34	
算出根拠等	化石発掘教室延べ参加者数	達成率(%)	115	100	57		
成果指標	荘川地域のエコツーリズムにおける化石発掘体験の実施回数	回	目標値	5	5	5	
			実績値	3	3	1	
算出根拠等	実施回数	達成率(%)	60	60	20		
補足事項							
・市内小中学校を対象とした「化石発掘教室」において、参加者の小学5年生の児童が草食恐竜の歯の化石を発見した							
コスト面			H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	798	1,000	999	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			798	1,000	999	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	4,222	6,452	7,400		
コスト指標	受益者	(B)	189	155	135		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・荘川地域は全国でも有数の化石が発掘されており、化石は荘川地域の大切な「宝」のひとつであるが、化石フォーラムの参加者は高山市民以外の方の参加が多い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・化石に関する研究は専門性が高いため、調査・研究は大学等研究機関と連携が必要である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・化石フォーラムは16回開催しリピーターも増え、化石に関する関心が高まっていることから、「荘川の化石」というイメージが定着している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・荘川化石調査研究推進委員会に委託しているが、講師については交通宿泊費のみで実施している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・高山市内に住む子どもたちに化石を身近に感じてもらうことができ、今後の担い手づくりに寄与することができた
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・実施手法を見直し、地域の自主事業として実施されることとなった。
--	----------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3321
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,175 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・住民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援することにより、地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進し、特色ある地域づくりによる地域活性化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業に対し、事業費の支援を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・補助件数 8件					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	申請件数	件	目標値	10	10	11
		実績値			7	11	8
	算出根拠等	町内会等からの申請件数	年10件	達成率(%)	70	110	73
		補助件数	件	目標値	10	10	11
	活動指標	実績値			7	11	8
		算出根拠等	申請件数×100%	達成率(%)	70	110	73
	活動指標	ハード事業実施割合	%	目標値	75	75	75
		実績値			57	82	75
	算出根拠等	ハード事業数/補助件数		達成率(%)	76	109	100
		1件あたりの平均補助額	円	目標値	340,000	300,000	250,000
	成果指標	実績値			186,773	318,182	300,666
		算出根拠等	総補助額/補助件数	達成率(%)	55	106	120
	算出根拠等	目標値					
実績値							
算出根拠等	目標値						
	実績値						
算出根拠等	目標値						
	実績値						
補足事項							
・支所地域のPRと特産品販売の拠点として運営されている飛騨高山アンテナショップへの運営費補助も含まれる							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,307	3,500	2,405	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,307	3,500	2,405	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,026	2,862	1,998	
	受益者 荘川町民(4月1日現在)		(B)	1,274	1,223	1,204	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・地域住民が自らの手で地域をより良いものにするようという意識が高くニーズが高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・安全・安心・快適な住環境づくり、特色ある地域づくり及び地域の活性化を推進することは、住みよいまちづくりを図ることができた
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・各町内会等の創意工夫ある地域振興事業が実施され、安全・安心・快適な住環境づくり、特色ある地域づくり及び地域の活性化が図られた
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補助交付決定の際に審査しており、適正な支援を行っている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域住民が自ら実施する地域振興事業に対して支援することにより、特色ある地域づくりを推進し、地域住民が自主的、主体的に取り組む機運が高まった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、地域の自主事業として実施されることとなった。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	荘川支所 地域振興課	内線	3321
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	D その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川町民	対象者数	1,175 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・市道、農道、水路、市所有施設等の公共施設の軽微な修繕など地域からの要望に対し即座に対応することにより、安全・安心・快適なまちづくりと特色ある地域づくりによる地域活性化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、農道、水路、市所有施設等の公共施設の軽微な修繕に対し修繕を実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	・修繕件数 6件					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動 指標	各町内会からの当初要望提出件数(要望書及び市への情報連絡票)	件	目標値	80	80	80
				実績値	89	96	89
				算出根拠等	約5件×16町内会	達成率(%)	111
	活動 指標	当初要望に対する現場確認件数	件	目標値	80	80	80
				実績値	89	96	89
				算出根拠等	当初手要望提出件数×100%	達成率(%)	111
	成果 指標	当初要望のうちこの事業で対応した件数	件	目標値	10	10	5
				実績値	3	2	6
				算出根拠等	要望提出件数×6.25%	達成率(%)	30
	成果 指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等		達成率(%)	
	成果 指標			目標値			
実績値							
算出根拠等					達成率(%)		
補足事項							
・高山市で対応できる要望に対しては、できる限り対応できるようにしており、軽微なものに関しては即座に対応している							
コスト 面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 8,530	9,411	1,850		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		8,530	9,411	1,850		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 6,695	7,695	1,537		
	受益者 荘川町民(4月1日現在)		(B) 1,274	1,223	1,204		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・平成26年度において、各町内会から89件の要望(市への情報提供連絡票分を含む。)があり、他事業での実施することを考慮しても、当事業に対するニーズは非常に高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・公共性の高い施設を対象とした修繕であるため妥当である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・各町内会からの要望に対して、事業の優先度や真に地域振興に資する事業であるかを判断しており、その結果について各町内会長に説明を行い理解を得た上で実施した
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・修繕方法の工夫等を行いコスト削減に努めた
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・全ての要望に対し現地確認を行い、今後の対応について住民へ説明しており、地域の要望に対応することができた
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定